

空手心

早鞆高の佐



こなし、帰宅後は3、4時間かけてトレーニングに汗を流す。

次の目標の国際親善選手権は11月19日に東京で開催

全中四国空手道選手権で優勝した佐伯聖翔さん(下関市)

稿を10分以内にだけ早く入力。伊勢島さう。府市で行われた総字数1500、4位となった。は団体の部で山商高以外で優秀めたことから、

柳井金魚ちょうちん ルーツは弘前

ねぶた絵見て縁知って

市観光協会製作

来月13日に開催される柳井市の夏の風物詩「金魚ちょうちん祭り」を前に市観光協会は、金魚ちょうちんのルーツとされる青森県弘前市の「弘前ねぶた」の絵を交流事業の一環で製作した。3年ぶりである同祭りに向けて、金魚ちょうちんができた経緯や弘前市との

縁を広く市民に知ってもらい、祭りの盛り上げと新たな交流の展開を目指すのが狙い。

製作は柳井市中心部の白壁の町並みにある国重要文化財「国森家住宅」で実施。青森から男性ねぶた絵師(24)1人を招き、江戸期の柳井の商人、熊谷林三郎が

ねぶた絵師が描き上げた絵に見入る柳井中と柳井商工高の生徒たち(柳井市柳井中)



ねぶた絵師が描き上げた絵に見入る柳井中と柳井商工高の生徒たち(柳井市柳井中)

ねぶた絵を張る木製の骨組みも同時に製作。絵を張って、金魚ちょうちんの夜間電飾が始まる6、12日に町並み内で展示される。

同部の3年、原田遥香部長(17)は「丸い部分の色塗りが難しかった。多くの人の見てほしい」と話した。

同協会によると金魚ちょうちんは、商いで青森を訪れた熊谷林三郎が津軽藩で飼育されていた金魚の品種「津軽錦」や金魚灯籠を見



モモの見た目をチェックして分ける関係者(19日、秋市上小川東分)

てアイデアを柳井に持ち帰り自ら考案したとされる。柳井市の市民団体が2019年、講演会で弘前の文化財関係者を招いたことが縁で交流が始まった。

(湊孝典)

フォローしたという。パック(ず)らに、ウェブ上回答した学生に米300袋を返した。

J A 山口県

山口米食べ 産地応援

J A 山大生におむすび配る

山口米を食べる産地を応援してもらうと、J A 山口県は19日、県内産の米で作ったおむすびを山口市吉田の山口大で学生たちに無料配布した。

山口米の消費拡大を図る取り組みとして、県産のコシヒカリ42キを使って作ったおむすび千個を用意。J A 山口県のインスタグラム公式アカウントをその場で

